

先ずは昨年三月十一日の東日本大震災により尊い命を失われました方々への追悼と被災された方々に対し、一日も早く穏やかな日々をおくる事が出来ますようお祈り申し上げます。

第十八期岩曹青会長を拝命してから任期の二年が経ちます。宗務所長老師をはじめ県内各ご寺院様賛助会員老師会員宗師の皆様には

当会の活動に対しまして特段のご理解とご協力を賜り深く感謝を申し上げます。

特に昨年の大震災からは例年の活動を被災地への支援活動に振替え多くの会員が沿岸地区へと向かって頂き

ました。その中、昨年十二月十三日の歳末助け合い寒風托鉢を復興支援托鉢として一教区盛岡市久昌寺様を出発地として市内を巡り淨財は全て盛岡市社会福祉協議会へ寄託しました。今年二月二十二日には盛岡市内のホテルに於いて青少年教化委員の自主研修会との共催にて教養セミナーを開催し秋田大学大学院より佐々木久長先生をお招きしボランティアに関する講義を頂きました。前の托鉢もそうですが多くの参加を頂き感謝申し上げます。そして三月十一日を迎える沿岸地区のご寺院様では一周忌法要などがあり全曹青の関係の方、秋田県曹青の方など多くの方が来られておりました。当会でも多くの会員が

沿岸地区のご寺院様へお伺

岩手県曹洞宗青年会
会長 新沼 孝純

会長挨拶

曹青 通信

い わ て

ました。その中、昨年十二月十三日の歳末助け合い寒風托鉢を復興支援托鉢として一教区盛岡市久昌寺様を出発地として市内を巡り淨財は全て盛岡市社会福祉協議会へ寄託しました。今年二月二十二日には盛岡市内のホテルに於いて青少年教化委員の自主研修会との共催にて教養セミナーを開催し秋田大学大学院より佐々木久長先生をお招きしボランティアに関する講義を頂きました。前の托鉢もそうですが多くの参加を頂き感謝申し上げます。そして三月十一日を迎える沿岸地区のご寺院様では一周忌法要などがあり全曹青の関係の方、秋田県曹青の方など多くの方が来られておりました。当会でも多くの会員が

いし法要のお手伝いなどをさせて頂きました。この一年間は全国各地よりご支援を受け活動をして参りました、今後も必要な活動だと思いますので、これからも岩曹青へ対し引き続きのご協力を願い申し上げます。

また、当会の支援活動に対し宗務所長老師より感謝状を拝受しております事をご報告申し上げます。第十八期執行部の皆様には最後までご協力を頂きお疲れ様でした。これから岩曹青の発展を願いつつ退任のご挨拶とさせて頂きます。

最後に今回の曹青通信いわて88号は二十三年度中に発行されるべく担当者が準備していましたが私の都合で発行が遅くなりましたがお詫び申し上げます。

去る平成二十三年十二月十三日、盛岡市久昌寺さまを会場に「歳末助け合い寒風托鉢」が行なわれました。お預かりいたしました淨財四万五百二十一円は義援金として盛岡市社会福祉協議会さまに寄進させていただきました。

発行者
岩手県曹洞宗青年会
新沼孝純
発行所
岩曹青事務局
〒028-1101
岩手県上閉伊郡大槌町
吉里吉里 4-4-7 吉祥寺
内
TEL : 0193-44-2318
FAX : 0193-44-2331
題字／宗務所長
海野義清老師
編集／事業部
印刷／橋本印刷



平成二十三年東日本大震災活動報告

昨年三月十一日に発生した東日本大震災は、東北から関東にかけての東日本一帯に甚大な被害をもたらしました。岩手県内に於いても死者・行方不明者あわせて六千名を超えて、未だおよそ四万二千名が仮設住宅での生活を余儀なくされています。寺院の被害としては、六箇寺が津波によつて全壊し、他沿岸寺院も震災当初は避難されておりました。寺院の被害によって境内や本堂の提供を行なつております。このようないまの灾害にあたつて、岩手県曹洞宗青年会では犠牲者の冥福をお祈りするとともに、会員一同をもちまして被災者支援のためのボランティア活動を行なつきました。

今回、曹青通信「いわて」紙面をもちまして、震災初期に被災地や県内各地の火葬場詰め、遺体安置所での読経を行なつていただきまます。

当青年会では県内を大きく四ブロックに分け、四拠点それぞれに担当者を設けて活動を行なつてまいりました。これは、各地域に於いて迅速な活動を行なう為であります。その結果、被災当初の早急な対応はもちろんのこと、被災規模により異なる経過によつて様々に変化していく状況にある程度柔軟に対応できた結果となりました。震災当初におきましては支援物資の運搬・瓦礫の撤去作業等が、避難所解体をさかに、仮設団地内においてのサロン開催(行茶)が主な活動となつております。このほか宗門僧侶としての活動としまして、震災直後のガソリンの入手にわたつて活動を行うことが出来ましたのも、震災初期に被災地や県内各員諸師、賛助会員さまの御尽力をはじめといたし

当青年会では県内を大きく四ブロックに分け、四箇所において同日、同時に厳修いたしております。

また、例年の活動の延長ではありますが、十二月十三日に盛岡市久昌寺さまを会場に「歳末助け合い寒風托鉢」を被災地復興として行なつております。当時は県内会員約四十名が盛岡市内を二時間にわたつて托鉢修行いたしました。お預かりいたしました淨財四万五百二十円は盛岡市社会福祉協議会を通じまして、東日本大震災の復興義援金として寄進させていただ

ます。また、震災当初より救援物資、義援金等の後方支援にはじまり、実際に県内被災地に訪れていただいた関係各位、各県宗教所・青年会の皆様には感謝の言葉もございました。誠にありがとうございました。

平成二十三年七月十一日午後二時四十六分打ち出し
第一ブロック 第十二教区 東海寺
第二ブロック 第十一教区 龍泉寺
第三ブロック 第十教区 江岸寺
第四ブロック 第九教区 普門寺
東 日 本 大 震 災
被災物故者追悼法要

第一ブロック 担当 久慈市 野田町
第二ブロック 担当 番澤廣円師 宮古市 山田町
第三ブロック 担当 上館文隆師 大槌町 釜石市
第四ブロック 担当 阿部光禪師

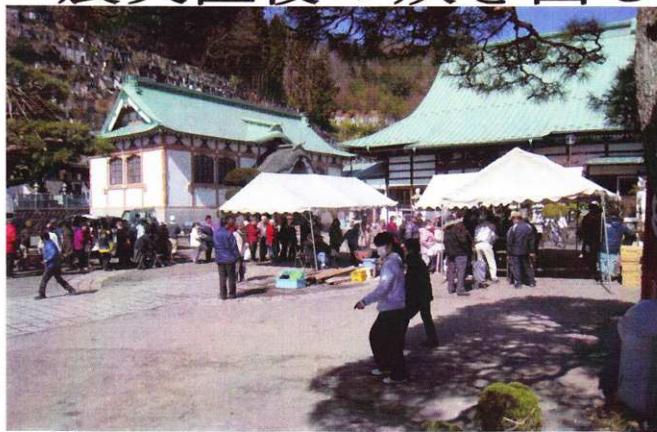
事業部より

平成23、24年度におきまして、曹青通信「いわて」第85号～第90号の発行を予定しておりましたが、今年度事業縮小・印刷会社被災のため昨年度85・86号、今年度87・88号の都合4号の発行となりました。

この場をお借りいたしましてお詫び申し上げます。

担当 渡辺博三師 第四ブロック 大船渡市
担当 渡辺博三師 陸前高田市

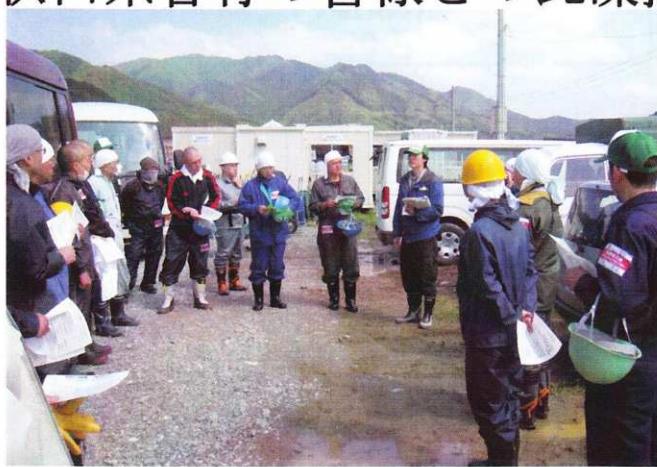
震災直後の炊き出し



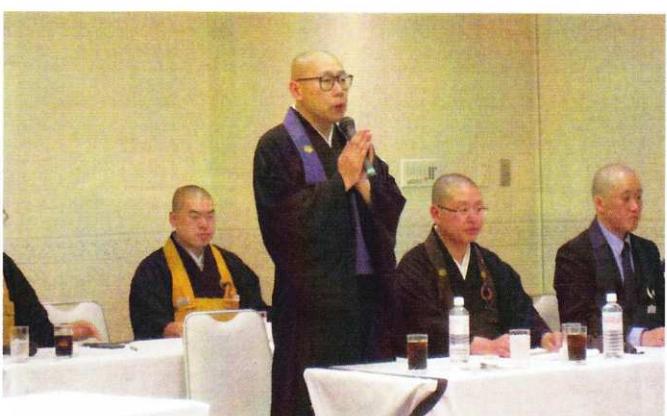
釜石市 石応禪寺



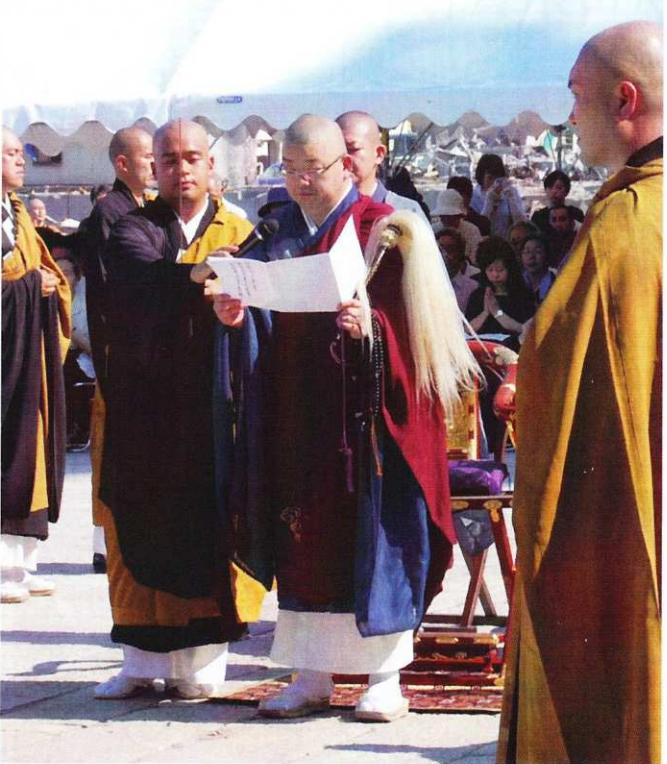
秋田県曹青の皆様との瓦礫撤去作業の様子 陸前高田市



ボランティア活動報告会



東日本大震災被災物故者追悼法要 写真は大槌町 江岸寺様



岩手県曹洞宗青年会 平成23年東日本大震災ボランティア活動報告

他県曹青・宗務所との活動含む(1月31日現在)

第1ブロック 久慈市・野田町方面

日 時	場 所	活動内容	備 考
3月29日	野田村 集落センター	瓦礫泥撤去	
3月全般	二戸市・九戸村・軽米町 久慈市・葛巻町等 各斎場	読経	近隣寺院
4月14日	野田村	瓦礫撤去	5・6・7教区有志参加
4月20日	海蔵院内避難所 15名 えぼし荘 20名	行茶活動	石川県曹青3名参加
4月28日	野田村 海蔵院 普代村 妙相寺	大練忌法要	
5月13日	野田村 久慈工業高校内避難所 野田中学校内避難所	行茶活動	
7月11日	洋野町 東海寺	被災物故者追悼法要 復興祈願会	岩曹青

第2ブロック 宮古市・山田町方面

日 時	場 所	活動内容	備 考
4月1日	宮古市 江山寺	瓦礫撤去	
5月12日	田野畠村 宝福寺 漁港2ヶ所	供養法要	新潟県 第4宗務所青年会
5月25日	宮古市 宝鏡院	胡麻豆腐づくり	埼玉県第2宗務所 第7,8教区青年会
5月31日	山田町	仮設住宅入居準備 支援物資仕分け	
6月23日	"	瓦礫撤去	
7月11日	山田町 龍泉寺	被災物故者追悼法要	岩曹青
7月12日	山田町 陸中山田	瓦礫撤去	
7月25日	宮古市 江山寺	"	
8月8日	"	お盆準備	
10月17日	"	瓦礫撤去	

第3ブロック 大槌町・釜石市方面

日 時	場 所	活動内容	備 考
3月14日	釜石市 石応禪寺	支援物資搬入	
3月16日	釜石市 石応禪寺 大槌町 吉祥寺	"	
3月21日	大槌町 吉祥寺	"	

3月25日 ～4月13日	遠野市斎場	読経	
3月27日 ～5月8日	大槌火葬場 大槌遺体安置所 4ヶ所	"	
3月30日	釜石市 石応禪寺	避難所引越し	
3月31日	大槌町 吉祥寺 釜石市 旧釜石第一中学校	足湯ボランティア	秋田県曹青
4月28日	釜石市 盛岩寺	合同葬	
4月29日	大槌町 吉祥寺	"	
5月24日	釜石市	行茶活動	山口県曹青
6月7日	"	"	"
6月14日	"	瓦礫撤去	岩曹青
6月17日	釜石市 石応禪寺	身元不明者合同供養	
6月21日 ～22日	遠野市 慶雲寺 釜石市	胡麻豆腐づくり 胡麻豆腐配り	新潟県曹青
6月30日	釜石市	行茶活動 支援物資搬入	秋田県曹青
7月11日	大槌町 江岸寺	被災物故者追悼法要	
7月12日	釜石市	行茶活動	大阪府曹青
8月31日	"	"	秋田県曹青
9月1日	"	"	"
9月11日	"	"	
9月17日	遠野市 曹源寺 大槌町	胡麻豆腐づくり 胡麻豆腐配り	
9月27日	釜石市	行茶活動	山口県曹青
9月28日	"	"	"
10月4日	釜石市 甲子町	"	岩曹青 6名
10月10日	釜石市	"	山口県曹青
10月13日	大槌町	行茶活動 移動図書館	秋田県曹青
10月18日	釜石市 日向A仮設	行茶活動	岩曹青 6名
11月2日	釜石市	"	岩曹青 3名
11月10日	大槌町 第9仮設	"	岩曹青 3名
11月21日	大槌町	行茶活動 移動図書館	秋田県曹青
11月25日	釜石市 箱崎C仮設	行茶活動	岩曹青 5名
12月6日	釜石市 大畑西仮設	"	岩曹青 3名
12月13日	釜石市	"	山口県曹青
12月20日	釜石市 大畑西仮設	"	岩曹青 3名
平成24年 1月17日	大槌町 吉祥寺	秋田曹青イベント補佐	
1月24日	釜石市	行茶活動	岩曹青 4名
"	釜石市 大畑西仮設	"	山口県曹青
2月5日	大槌町 金沢小学校	SVAイベント補佐	予定
2月14日	釜石市 大畑西仮設	行茶活動	"
2月28日	"	"	"

第4ブロック 大船渡・陸前高田方面

日 時	場 所	活動内容	備 考
4月25日	陸前高田市 気仙町・竹駒町・米崎町	家屋内片付け	岩曹青 17名
5月2日	陸前高田市 矢作町下矢作	田畠瓦礫撤去	岩曹青 5名
5月17日	陸前高田市 小友町	"	岩曹青 14名
5月24日	陸前高田市 竹駒町	道路側溝汚泥上げ	岩曹青 10名
5月31日	陸前高田市 小友町両替	田畠瓦礫撤去	岩曹青 秋田県曹青
6月9日	陸前高田市 矢作町下矢作	水路汚泥上げ	岩曹青 11名
6月23日	雨天・津波注意報により中止		岩曹青 7名
7月6日	陸前高田市 米崎町	田畠瓦礫撤去	岩曹青 16名
7月11日	陸前高田市 普門寺	被災物故者追悼供養	岩曹青
7月19日	陸前高田市 米崎町	山斜面瓦礫撤去	岩曹青 12名
9月8日	陸前高田市 小友町	小友中周辺草刈	岩曹青 6名

行茶道具一覧

行茶活動にあたりまして下記の道具を使用いたしました。
今後新たに活動する際の参考になればと思い、ここに道具一覧を明記いたします。

行茶道具一覧

- コーヒーメーカー 1
- ヤカン 1
- ポット
 - お湯用 1
 - コーヒー保温用 1
- 折りたたみ式の机 2
- カセットコンロ 1
- 湯のみ 10
- コーヒーカップ 5
- 食器類
 - 大皿 2
 - 中皿 3
 - 小皿 8
 - スプーン 6
- きゅうす 1
- 茶筒 1
- 建水 1
- 菓子用カゴ 2
- クーラーボックス 1
- 保冷剤 3
- 携帯用まな板 1
- ナイフ 1
- 食器水切りカゴ 1
- はさみ 1
- 缶きり 1
- 洗濯籠 1
- ケース類
 - 衣装ケース 1

消耗品

- タオル
- 台拭き
- ストロー
- 割り箸
- 紙皿
- 紙コップ
- ゴミ袋
- レジ袋 (取っ手付)
- コーヒー用フィルター
- コーヒー粉
- コーヒー用マドラー
- スティックシュガー
- コーヒー用ミルク
- 緑茶
- 茶菓子用の楊枝
- 懐紙
- 食器用洗剤
- 食器用洗い用スポンジ
- 紅茶 (インスタント)
- カセットボンベ

その他当日に必要と思われるもの

- 茶菓子
- ミネラルウォーター
- ジュース類

総括

年間を通して上記のように活動を行つてきました。ですが、様々な問題点も浮かび上がつてきました。今回県内四ブロックに分けた弊害として活動母体の縮小に伴い、他の団体が行なつたような一般に対するボランティアの募集を行ないませんでした。そのため人材的に青年会の内部のみで完結せざるをえず、被災地である沿岸地区に連続的に人員を派遣することが困難でありました。特に初期の家屋内清掃・瓦礫の撤去等に関しましては多くの人員の動員が必要であり、当会として回数的にも多くは活動できかねておりました。やはり、独自の提携・協力を視野に入れて活動を行つていく必要性があり、人会など様々な団体が構成されています。

もうひとつ拠点同士の横の連携不足も挙げられるのではないか。組織的に対処できかねているのが現状です。町村ごとのボランティアの受け入れ態勢に違いがあつたという要因もありますが、地域ごとのボランティアの頻度において格差が生まれてしまつたのも現実であり、それが今なお継続しております。

他団体との連携・協力、地域ごとの頻度の差に関しましては、岩曹青内部だけの問題ではなく、ボランティアセンター主催の会議でも議題にあがるところであります。今後、被災地復興にむけての活動を続けるにあたつて、他団体との提携・協力を団体の垣根を越えた連携、情報の共有等が重要なテーマになつていくのではなかると予想されます。

また、震災当初より全国各地から宗務所、青年会など様々な団体が被災地を訪れ、ボランティア活動を行なつた時期もあり、その活動が地域ごとの頻度の差に影響を与えていました。岩曹青内部だけの問題ではなく、ボランティアセンター主催の会議でも議題にあがるところであります。今後、被災地復興にむけての活動を続けるにあたつて、他団体との提携・協力を団体の垣根を越えた連携、情報の共有等が重要なテーマになつていくのではなかると予想されます。

今後、被災地復興にむけての活動を続けるにあたつて、他団体との提携・協力を団体の垣根を越えた連携、情報の共有等が重要なテーマになつていくのではなかると予想されます。

もうひとつ拠点同士の横の連携不足も挙げられるのではないか。組織的に対処できかねているのが現状です。町村ごとのボランティアの受け入れ態勢に違いがあつたという要因もありますが、地域ごとのボランティアの頻度において格差が生まれてしまつたのも現実であり、それが今なお継続しております。

たため、被災地の近隣寺院に負担が集中する結果になつてしまつたことは非常に残念に思います。受け入れ・調整等を行う専門部署の必要性、更には今後逆の立場に立つた場合に、現地に出来的だけ負担のかからない方法を考える必要があるのだと思つた。今後、実際の活動の方が重く見られがちですが、元が請け負つて行かなればならないのではないでしよう。

今後、被災地復興にむけての活動を続けるにあたつて、他団体との提携・協力を団体の垣根を越えた連携、情報の共有等が重要なテーマになつていくのではなかると予想されます。

今後、被災地復興にむけての活動を続けるにあたつて、他団体との提携・協力を団体の垣根を越えた連携、情報の共有等が重要なテーマになつていくのではなかると予想されます。

今後の活動

今現在、避難所が解体され仮設住宅への入居も完了している状況でありますので、今後は実際にそういった部分の問題の想定をしていかなければなりません。現在、被災地では、震災により慣れ親しんだ土地を離れ仮設団地へと入居された方が多く、既存の地域的な近所づきあいが失われてしまつたケースが数多く見られ、自死予防・孤独死予防の観点から仮設団地内のコミュニティ作りは急務となつております。行茶活動の場はその形成の一助となりえるのではあります。しかししながら仮設団地へと入居された方が負担のかからない方が多いのです。行茶活動の場はその心のケアのも重要であり、震災から一年が過ぎようとしている今現在においても、震災によるトラブルに悩まされている方が多くいらっしゃいます。当会といたしましては、今後も定期的・長期的に行茶活動を継続していく所存ではあります。

今後、被災地復興にむけての活動を続けるにあたつて、他団体との提携・協力を団体の垣根を越えた連携、情報の共有等が重要なテーマになつていくのではなかると予想されます。

今後、被災地復興にむけての活動を続けるにあたつて、他団体との提携・協力を団体の垣根を越えた連携、情報の共有等が重要なテーマになつていくのではなかると予想されます。

今後、被災地復興にむけての活動を続けるにあたつて、他団体との提携・協力を団体の垣根を越えた連携、情報の共有等が重要なテーマになつていくのではなかると予想されます。